交流活動
《特別寄稿》

クラブ活動の場としての「龍谷の森」

下野　義人・藤谷　優子

2006年7月21日（金）に大阪府立香里丘高校生物部の活動の一環として、「龍谷の森」で調査を行いました。部長である2年生の藤谷優子さんと1年生の塚本晃治君の2名と一緒に、土砂降りの雨の中林の観察や植物調査を行いました。当日の状況と感想は部長の藤谷さんが文章を書いていますので、参考にして下さい。

「龍谷の森」を訪問しようと思ったかを簡単にお話します。きのこの研究会で土屋先生を存じ上げていました。きのこ観察会の時に先生とお話しする機会があり、龍谷大学には広い里山があるとお聞きしました。生物部の生徒から日頃より校外で活動したいと言われていましたので、この場所を利用して、生徒達が動植物等を勉強できたらと思い、今回の観察会を企画しました。

今回、土屋先生や谷垣先生に専門的な事柄を指導して頂き、動植物の名前を教科書で知っていても、実際の生物を見ていないことが多いので、観察や調査を通じて、大阪周辺の照葉樹林を構成している植物やその中で生活している動物等を知ることができ、生徒達は本当の知識を得ることができました。高等学校で一人の教員が指導できる分野は限られていますので、大学の多くの先生が関わって研究されている場所を一緒に調査でき、いろいろなことを教えて頂くことができて、非常に良かったと思います。

近年、高校での文化系のクラブ、特に生物部など科学系のクラブは、どの学校でも部員が少なく、継続的な活動も難しく、クラブの存在の危機に面しているところが多いです。

単独の高校の活動では人数が少なくて元気が出ないけれどもいろいろな学校の生徒が一緒に取り組み共同して観察や調査をすることによって、生徒間で情報交換ができ、連

携感が生まれると思います。将来的には、1校だけの調査でなく、数校の高等学校の生物部の部員が集まって、合同合宿みたいなものができれば、高校の生物部の活性化に繋がると思います。

大学生で「龍谷の森」を使って、合同の調査や観察会をしていると聞いていますので、高校生でも合同の生物観察会や調査をできることを期待しています。

下野義人

私たち生物部では、日頃の部活動ではできないような野外生物の調査を休みの日を使ってしたいと思っていました。顧問の下野先生のお知り合いの龍谷大学の土屋先生から「龍谷の森」の調査のお誘いを受けて、当日の予定の合った私と1年生の部員1名とともに参加しました。

当日の天候は雨、朝9時20分頃に龍谷大学瀬田キャンパスに着いた頃には、雨がどしゃ降りで、私は「こんな雨の中、龍谷の森を歩くのは大変やな」　とか　「雨の中、森を歩くのも楽しいかな。」など、不安と興奮の中、土屋先生と合流するのを待っていました。まもなく土屋先生と合流して、簡単なご挨拶をした後に「龍谷の森」に入りました。

森の中を歩きながら、アカマツを見つけると、先生にアカマツの年齢の数え方など植物に関する話をきかせて頂きました。しかし、その日の大雨で森の中にある小道は小川になってしまっていて、私たちが歩くのがやっとという感じになっていました。でも、そんな中でも木の根元に何本か白い泡がたまっている木があり、これは何だと先生とお話を少しして、「雨が降ると木づたいに水が流れ、ホコリなどの養分がその水に含まれ根元におりていって泡状となるから、この泡ができる」のではないか解説してもらって、雨の中ならではの、変わった風景を見れておもしろかったです。

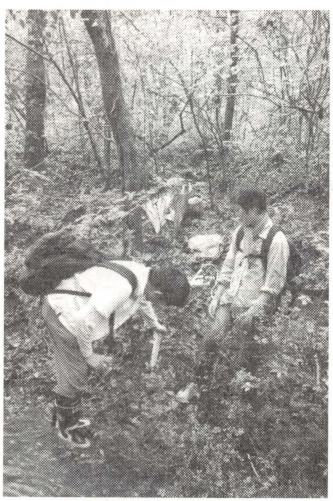
雨も降ったり止んだりしてきて、途中晴れ間もあって、11時30分頃、バイオトイレに案内していただきました。水のいらないトイレということで、私も使用させてもらい、用を足して後で、自転車のペダルのようなものをこいで、それを撹拌しましたが、ちゃんと分解されたか不安でした。でも、バイオトイレなら山でも設置できて臭いがないから　「ハイキングに行きたいけれどトイレがないし、あっても汚い」　と言う人のためにもいいかなあと思いました。

そして12時、お昼を食べて谷垣先生と合流して、今度は昆虫のトラップを見せて頂きました。エサの代わりに水のトラップを使うと、いろんな虫が罠にかかるという解説も勉強になりました。

午後2時頃、まだ杭の打たれていない場所の杭打ちをさせてもらいました（V11の谷を150m（V_{11}0150まで）。しかし、傾斜の急な場所や草や木が生い茂っているところを、メジャーで測って杭打ちをする作業は、泥だらけになるし、足腰がしんどくて大変でした。でも、そんな作業も終わってみれば達成感があったし、泥だらけの服もかえって小気味いいくらいでした。

その後に午後4時頃、谷垣先生とは別れ、私たちもいったん「龍谷の森」を離れ、近所の若宮八幡神社とその辺りの田んぼや村を散策しましたが、正直、杭打ちをした疲れで、ただ田んぼからみえる景色に見とれていました。

そして午後4時30分頃、森の中の歩道を通って大学に戻りました。大学では下野先生と土屋先生のお知り合いの先生の部屋に案内して頂き、そこでマタタビ入りハチミツと、クッキー、そして紅茶をいただきました。疲れていたから余計おいしくて、先生方に遠慮せずに大量に食べてしまいました。帰り際には、その部屋の先生にお土産に何かの葉っぱの乾燥させたものをもらって、家に帰ってお茶にしていただきました。最初、飲んだらすごく苦くて飲みにくかったのですが、1週間も飲んでいると舌が慣れて、逆に苦みの奥のうま味が分かって、おいしくなりました。



生物調査用ルート番号杭の設置

私と1年の後輩とも植物や昆虫は、勉強不足なので先生方の植物や昆虫に関する解説をうまくのみ込めない部分もありましたが、単純にいろんな植物を見たり、森の中を歩いたり、バイオトイレを見せてもらったり、杭打ちをしたり、勉強になった以上に、いい思い出になりました。

藤谷　優子